

I 事業の概要と平成28年度の活動

ここでは茨城大学COC事業の全体像を説明したうえで、平成28年度の活動の特徴について取り上げる。

茨城大学では「茨城と向き合い、地域の未来づくりに参画できる人材の育成事業」を進めている。COC事業の3年目、地域志向教育の2年目にあたり、個々の課題はあるものの、地域、学生、教職員、社会連携センターや地方創生室などの学内組織と、協力のもとに事業を進めてきた。

具体的には、全学共通科目「5学部混合地域PBL」の新設、学生の地域活動の拡大、COCを起点とした事業の全学展開、同左COCプラス事業への展開など、事業の拡充と発展がみられた。

茨城と向き合い、地域の未来づくりに参画できる人材の育成事業(茨城大学COC事業)

◎平成26年度の主な取組み

事業の立ち上げ、組織整備、自治体等との連携強化
地域内企業との関係、研究、社会貢献プロジェクトの実施
地元中堅企業24社への訪問(26年度採定企業)
「**地域志向教育プログラム**」の設立準備

◎平成27年度の主な取組み

教員も含めた各種プロジェクトの実施(共同研究や全学の重要な研究への参画も)
「土曜アカデミー(地域住民向けのさまざまな講座)」の地域展開
地元中堅企業23社への訪問
全学事業へ展開

◎平成28年度の主な取組み

各種プロジェクトの実施
同僚天心国際シンポジウムの開催など

茨城大学のCOC地域志向教育

地域志向教育(正課) → 地域志向科目

地域志向教育プログラム

教員・専門の地域志向科目 (茨城学や地域かねなど)

ゼミナールなど

学生課程 → 修士課程

「イバカク」の学生地域参画プロジェクト(授業外のPBL)

◎地域志向教育プログラムの対象科目

科目の区分	科目名	必修/選択/必修	履修年次
教員	「茨城学」	必修/必修	1年
	地域志向科目	選択	1年～4年
学部	地域志向科目	選択	2年～4年
	専門科目	必修/選択	1年～4年
全学共通	5学部混合地域PBL	必修/必修	1年～4年
	地域志向科目	必修/必修	2年～4年

修士課程単位数 合計2単位以上

茨城学の授業計画

- 1 シラバス公開、ガイダンス、地域参画と教育への参画推進のための取組み
- 2 学部の授業を基とした地域参画と連携強化
- 3 地域内企業との関係強化
- 4 地域内企業との関係強化
- 5 地域内企業との関係強化
- 6 地域内企業との関係強化
- 7 地域内企業との関係強化
- 8 地域内企業との関係強化
- 9 地域内企業との関係強化
- 10 地域内企業との関係強化
- 11 地域内企業との関係強化
- 12 地域内企業との関係強化
- 13 地域内企業との関係強化
- 14 地域内企業との関係強化
- 15 地域内企業との関係強化
- 16 地域内企業との関係強化

「茨城学」での学生参画の様子

「茨城学」での学生参画の様子

「茨城学」での学生参画の様子

COCプラス事業(27年度採定)

地元就職促進などを目的に、インターンシップ科目などを含めた「**地域志向人材教育プログラム**」を開始

・COCが関係企業へ、インターンシップの提案、相談などを実施

・「**茨城学**」の他、他大学等での共有

外部評価:A(当初計画通り)に実施された)
講評: 学生の地域活動に期待

外部評価:A(当初計画通り)に実施された)
講評: 「地域志向教育プログラム」として「茨城学」の開始、「イバカク」の立ち上げや企業参画の促進などに期待。取組みのさらなる改善や継続を期待

茨城新聞

「茨城学」の他、他大学等での共有

I 事業の概要と平成 28 年度の活動

1 茨城大学 COC 事業の全体像

COC 事業とは、「大学等が自治体と連携し、全学的に地域を志向した教育・研究・地域貢献を進める大学を支援することで、課題解決に資する様々な人材や情報・技術が集まる、地域コミュニティの中核的存在としての大学の機能強化を図ることを目的としています」(文部科学省ホームページ)。

茨城大学では「茨城と向き合い、地域の未来づくりに参画できる人材の育成事業」を進めている。本事業の究極の目標は、地域を拠点に、県外と世界に誇れる、開かれた茨城の創造にある。そのため、茨城大学は、「地域に学び、地域に還元し、地域と共に成長する拠点となること」を目指し以下の内容に取り組んでいる。

事業内容は大きく分けて、地域課題の解決と人材育成の2つある。

前者では、自治体をはじめ地域課題解決に取り組んでいる企業・団体等と連携して、人口減少地域の地域活性化、中小企業競争力強化支援、農業振興、地域の教育力向上支援の課題に取り組む。その取組みの中で、学生と教職員の活動を連動させ、地域の課題解決と活性化へ役立つ研究と実践を行う。また、地域人材のブラッシュアップによる地域の教育力向上を支援する。後者では、地域志向教育プログラムを新設し、地域での教育を通して、地域に頼られる学生を育成する。

なお、地域課題の解決と人材育成は、それぞれ別々に実施するわけではなく、地域課題を人材育成にも活用する。特に、PBL（課題をもとにその解決を通して学習する講義）においては、出来るだけ地域課題を題材にし、学生が現実の社会に触れ、実践的で主体的な学びとなるよう努める。

PBL などの教育は、学生の成長機会としてばかりでなく、地域住民や経営者等が学生から刺激を受けて、地域での役割を再認識する機会ともなることを期待する。

こうした教育の波及効果に、研究・社会貢献の効果が相乗することで、地域住民が当事者意識を持って、地域の未来を考える社会を実現したいと考える。

【連携する自治体・企業等】

茨城県、水戸市、日立市、阿見町、高萩市、常陸太田市、常陸大宮市、東海村、大洗町、茨城町
(株)常陽銀行、(株)筑波銀行、(株)ひたちなかテクノセンター、(公財)日立地区産業支援センター、茨城産業会議

連携先を起点に広く地域の方々と交流しながら事業を進めます。

茨城と向き合い、地域の未来づくりに参画できる人材の育成事業 ～グローバルな視野と対応を通じて～

茨城が変わる

【究極の目的】

地域を拠点に、県外と世界に誇れる、開かれた茨城の創造

【地球課題】→ グローバル対応と
多文化共生を念頭に

- 1.人口減少地域の地域振興
- 2.中小企業の競争力強化支援
- 3.農業振興
- 4.地域の教育力向上支援

自治体等と連携してなにをどうするのか
①地域に頼られる学生・留学生の育成
②地域の課題解決と活性化
③地域人材のブラッシュアップ

【地域志向大学宣言】

地域に学び、地域に還元し、大学と地域が共に成長する拠点

【課題解決への強み】

- 県北・県央・県南に広がる3つのキャンパスに5つの学部を有する総合大学

多様な地域特性をもつ茨城では、一点突破でなく、各領域課題に同時に取り組みねばならない

地域志向教育プログラムの設立

主に地域での教育を通じた学生の育成 (上記①該当)

地域を多角的に捉えながら地域課題と向き合い、1年次から大学卒業まで一貫して受ける、学部横断的アクティブラーニング

すべての学生が受講し、自治体や企業等と連携しながら行う「茨城学」

多様なPBL(課題をもとにその解決を通して学習する課題)

真顔に笑む学生が、
大学全体と地域を
変えていく

学生の成長機会、地域住民や事業者等の
地域での役割の再認識から

地域に役立つ研究と実践

学生と教職員の活動が運動した
地域課題への取組み (同②)

シンポジウムや地域円卓会議等から課題を共有

成果目標を明確に、学内外横断で取り組む、
地域課題解決型特定研究プロジェクトの展開

研究の蓄積・発信、社会事業化等から

社会貢献

主に教職員の活動による
地域人材ブラッシュアップ (同③)

理科教育、芸術者養成、食育・生涯教育
などの地域の教育力向上支援に重点

地域PBLや研究活動と
連動して、社会貢献の
枠組みを拡大したものと展開

協働・共創の関係への進化から

地域住民が当事者意識を持って、グローバルに地域の未来を考える社会の実現

2 平成 28 年度の活動

平成 28 年度は COC 事業の 3 年目、地域志向教育の 2 年目にあたり、個々の課題はあるものの、市民・自治体・企業等の地域、学生、教職員、学内の社会連携センター、地方創生推進室、図書館、全学教育機構等との協力のもとに事業を進めてきた。地域志向教育プログラムの拡充、学生の地域活動の拡大、学生コーディネーター制度の設立、COC を起点とした事業の全学やCOC プラス事業への展開など、COC 事業の拡充と発展がみられた。

28 年度の主な取組項目は下記の通りであり、以下では 28 年度の新たな展開について記述する。

【28 年度の主な事業項目】

◎地域課題等の共有

分科会式地域円卓会議（COC 統括機構企画型地域円卓会議）、自治体との実務者間意見交換会、パートナー企業へのインターンシップの相談・提案、シンポジウム、学生地域活動報告会、教職員の研修会（FD・SD）、ホームページ、フェイスブックページ

◎教育

学士課程での地域志向教育プログラム、大学院での地域志向教育、地域志向教育支援プロジェクト

◎研究

地域課題解決型特定研究プロジェクト

◎社会貢献

地域人材育成プロジェクト、COC 統括機構企画型地域人材育成、土曜アカデミー、新聞マルシェ、国際岡倉天心シンポジウム 2016

1) 全学共通科目「5 学部混合地域 PBL」の新設

地域志向教育プログラムは 2 年目に入り、「茨城学」等での学内での学習を地域で役立てられるよう、「5 学部混合地域 PBL」を新設して、9 月に 1 年次以上向けと 2 年次以上向けの 2 本を実施した。詳細は教育の記述に譲るが、全学生必修科目履修後の受け皿として、全学共通科目の PBL を開講できたのは有意義であった。

2) 学生の地域での活動の拡大

茨城学から派生した学生が中心となるプロジェクトには、前年度から継続している、学生と地域をつなぐプラットフォームの「イバラキカク」、企業とコラボし茨苑会館（学内食堂）のリニューアル等を行う「日本一つながる学食」がある。28 年度はさらに複数のプロジェクトが立ち上がり、それぞれの活動はもちろん、「茨城学」やCOC・社会連携センターのシンポジウムなどでも活躍した。また、イバラキカクの運営やプロジェクト間の交流促進等を目的に、「学生コーディネーター制度」を創設し、活動にあたっている。そして社会連携センターが中心となり、全学教育機構と連携しながら、上記のプロジェクトに限らず、大学で広く行われている学生の地域活動の報告会を実施した。

COC を起点とした事業の全学やCOC プラス事業への展開は後述